

南河内の里山の、とある集落を歩いていると…

「**ビワ**の花」と「**イヌビワ**の実」を見かけました。

“名前が似ているから同種なのだろう”とか、“イヌが付く方は人間にとって美味しくなかったり使い道が無いのだろう”と思われる方も多いと思いますが、果たして正しいのでしょうか？

少し調べてみることにしましょう。

別添の写真は、1枚目が「**ビワ**」、2枚目が「**イヌビワ**」です。（撮影は今月です）

### ◆写真①：ビワ

- ◇晩秋の寒い中、白い花を咲かせていました。
- ◇花期は11～12月ですが、昆虫の姿も少なくなったこのような時期に、しかも目立たない地味な花では、無事に受粉できるのかどうか心配になりますね…でも大丈夫、“自家受粉”できるだけでなく、メジロやヒヨドリが蜜を求めてやって来ますし、日中の暖かな日には「ハナアブ」も飛んできます。そして、実がなるのは開花の翌春の5月頃です。
- ◇「桃栗三年柿八年」と言う“ことわざ”がありますが、その後に、「枇杷は九年でなりかねる」と続けることもあるそうで、芽が出てから結実までには時間がかかります。
- ◇「**ビワ**」の命名は、葉の形が楽器の「琵琶」に似ているところからのようです。
- ◇実が食用になるだけでなく、葉は乾燥させて「**ビワ茶**」とされるほか、直接患部に貼りつけることで関節痛に効くそうです。材は粘り強いので、杖や木刀などに利用されています。

### ◆写真②：イヌビワ

- ◇果実は**ビワ**の実に似ていますが、**ビワ**に比べて不味いので「**イヌビワ**」と命名されたようです。
- ◇でも、**ビワ**の仲間ではなくて「**イチジク**」の仲間なのです。
- ◇イチジクは漢字で「無花果」と書きますが、**イヌビワ**も実ができていても関わらず、花を観察することはできません。
- ◇写真で実のように見えているのは「花囊（かのう）」といい、この中にたくさんの花が咲いて、受粉できればたくさんの実ができるのです。
- ◇それでは、このような閉鎖空間で開花した花の受粉は、どのような仕組みなのでしょう？  
晩秋から冬にかけて開花する「**ビワ**」とは違い、虫の多い4～5月に開花するのですが…
- ◇花囊（花時は花囊（かのう）と呼びますが、果実の時は果囊（かのう）と呼びます）の中へうまく入ることのできる「**イヌビワコバチ**」という虫の媒介によって受粉できるのです！つまり、「**イヌビワ**」と「**イヌビワコバチ**」は、はるか昔から、両方が生き残れるように共に進化してきたのですね。（これを「**共進化**」と言います）



